



かながわ湘南西 障福ナビだより

平成 30 年 3 月 30 日 第 94 号

社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター総合相談室

〒259-1302 神奈川県秦野市菩提 1711-2 ☎ 0463-71-5872 Fax 0463-75-3377 e-mail: soudan@jousei.or.jp

平成 29 年度第 2 回圏域重症心身障害児者及び医療的 ケアを必要とする方の支援ネットワーク会議

2/2
於 平塚養護学校

前号の記事で取り上げた、「重心・医療的ケアを必要とする方を支援する医療機関懇談会（12/7）」、「重心・医療的ケアを必要とする方の支援ネットワーク事業所情報交換会（1/12）」の開催結果報告に基づき、意見交換しました。

《レスパイトについて》

レスパイトを利用したくてもできないことへの打開策として、“医療機関同士のレスパイト入院における連携の可能性を探るため、個別の事例を通じて、関係する複数の医療機関をつなげていく取り組みが必要ではないか”、という意見が出され、“ケア会議を開催する際にレスパイト入院に対応している医療機関にも丁寧に参加を促すよう取り組みたい”という感想もきかれました。この意見交換を踏まえ、本会議に参加している 4 つの相談支援事業所それぞれが支援している方の中で、複数のレスパイト入院先を利用している場合にその医療機関同士が連携して対応できているか確認してみることになりました。また、レスパイトのニーズを持った医療的ケアを必要としている方々を把握しているあんしんネット事業所も、同様に協力いただけることになりました。



《看護師が安心して医療的ケアを提供できる体制の整備について》

会議では、通所事業所の求人募集で応募してきた看護師が、事業所の医療的ケア提供体制に不安を感じたことが原因で就職に至らなかった事例の報告があり、改めて看護師が安心して働ける体制の整備が必須であることを確認しています。その最も大切な要素とも言える看護師への指示書については、県内他地域からいただいた情報（医療的ケア実施要綱を整備し医療的ケアの位置づけや提供体制を明確化したことで看護師が安心して働ける事業所がある）や公的な関連領域の情報（診療情報提供料（I）の取り扱いなど）を報告しています。その後の意見交換を踏まえ、来年度は、医療的ケア実施要綱の圏域内での整備状況把握と医師の指示書の文書作成料のばらつきについて調べることにしています。

国の定めた基本指針では、平成 30 年度末までに「医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置」が求められていますが、当圏域内市町の多くは本ネットワークの有効活用を検討されており、関係者の顔の見える関係づくりを目指して単独で設置を検討している地域もありました。圏域内の動きは、引き続き本紙でも報告します。

平成 29 年度第 3 回湘南西部圏域自立支援協議会

2/21 於 平塚保健福祉事務所



今年度最後の圏域自立支援協議会は、年度の締めくくりにふさわしく、市町協議会における今年度の特徴的な取り組みや成果と圏域課題への取り組み状況の報告が主になりました。以下協議会の概要を報告します。ネットワーク形成の状況などは、紙面の都合で割愛しますが、詳細は今後発行する「平成 29 年度 湘南西部障害保健福祉圏域 地域生活ナビゲーションセンター 活動報告書（仮）」で確認いただける予定です。

《市町協議会の取り組み》

圏域内市町では、それぞれの地域課題の解決に向けて取り組んでいます。本協議会ではその中の特徴的な取り組みを報告いただいています。以下はその一部です。

- **【圏域課題】** 地域協議会の部会に下ろして協議している。
- **【当事者部会】** 設立に向けて活動を推し進めている。／当事者部会の部会長を部会員へのアンケートで決定した。当事者部会活動への謝金を部会から地域協議会に提案し、承認された。
- **【地域生活支援拠点事業「緊急時の受け入れ先の確保」】** 短期入所事業所等の資源を確認する調査を予定している。／地域の受け入れネットワーク構築に向けた会議を開催した。今後ニーズ調査、医療機関への参画の働きかけを検討している。／受け入れ先を確保するために予算立てしている。
- **【障害福祉計画】** 当事者部会として意見を伝えた。出来上がった計画は、当事者にわかりやすいものにはなっていなかったため、新年度にわかりやすい版を作成する。／当事者団体にも参加いただき、地域のニーズについて意見交換を行った。
- **【運営】** テーマを“移動・外出支援”と“一般就労先の開拓”に絞り、年度を通じて情報共有と意見交換を繰り返し、人材不足などの背景も含めて次第に課題が整理され、新年度の新たな動きにつながりつつある。

《圏域課題》

1. 「医療的ケアを必要とする方が利用できる資源が足りない」
→本紙 1 面記事の内容を報告。来年度は、ネットワーク活動として継続する。
2. 「緊急時の受け入れ先確保が難しい」
→来年度も圏域自立支援協議会として市町の取り組み状況を共有していく。
3. 「相談支援事業所、障害福祉サービス提供事業所等の職員育成のための研修が十分ではない」
→圏域内市町主催の研修を圏域内他の市町と共有することで、研修参加者が増えているため、新年度は対象となる研修を増やして対応する。



《来年度の協議会運営》

- 緊急時の受け入れ、医療的ケア児者が利用できる資源についての協議に向けて、あんしんネット事業所にもオブザーバー参加いただく。
- 開催場所を 1 か所に決めず、広く圏域内で開催可能な場所を検討する。

【あとがき】3月18日に閉幕した平昌パラリンピックで日本勢は、歴代3番目となる10個ものメダルを獲得しました。メダリストたちの誇らしげな笑顔がまぶしく映りました。神奈川県内では、地域課題解決に向けた金メダル級の絶え間ない努力によって、少しずつ前進がみられています。支援を受ける方、提供する方の双方が笑顔になるための圏域内の取り組みを発信していきますので、来年度も本紙をどうぞよろしくお願いたします。